

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「インタビューをして、自分の考えと比べながら聞こう」 教材名「聞いて、考えを深めよう」

2 単元の目標

語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。（〔知識及び技能〕(1)オ）
話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（A(1)エ）

聞く目的に合わせて相手の考えを捉え、自分の考えと比べる学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。（A(1)エ）	①聞く目的に合わせて相手の考えを捉え、自分の考えと比べる学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

聞く目的に合わせて相手の考えを捉え、自分の考えと比べる。この教材では、質問の意図・相手の考え・比較後の自分の考えを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

聞けない場合は教師の独自の経験談でも比較を行う。敬語は相手との関係に合わせ、録音や外部連絡は学校の条件を守る。想定する難しさは、相手の言葉をそのまま自分の結論にする。評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめているかを、質問の意図・相手の考え・比較後の自分の考えと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。単元の終わりに残す記録を確かめ、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○学校に関わる人への質問を準備し、意図と予想を記す。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）
第3次	4～5 （本時）	○学校に関わる人への質問を準備し、意図と予想を記す。相手の返答を要点と理由に分けて聞き、追加質問で確認する。聞いた内容と自分の考えを区別してまとめる。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	6	○聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (4/6)

(1) 本時の目標

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(A(1)工)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。 ○「相手の考えを聞いて、自分の見方のどこを確かめ直したくなりましたか」 【めあて】聞く目的に合わせて相手の考えを捉え、自分の考えと比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・予想と違う理由があった。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「相手の考えを聞いて、自分の見方のどこを確かめ直したくなりましたか」 学校に関わる人への質問を準備し、意図と予想を記す。相手の返答を要点と理由に分けて聞き、追加質問で確認する。聞いた内容と自分の考えを区別してまとめる。 聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。 〈予想される児童の反応〉 ・予想と違う理由があった。 ・賛成するだけでなく、自分の考えの根拠も見直したい。	聞けない場合は教師の独自の経験談でも比較を行う。敬語は相手との関係に合わせ、録音や外部連絡は学校の条件を守る。 想定する難しさ：相手の言葉をそのまま自分の結論にする。 評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめているかを、質問の意図・相手の考え・比較後の自分の考えと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 質問の意図・相手の考え・比較後の自分の考えを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・賛成するだけでなく、自分の考えの根拠も見直したい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「相手の考えを聞いて、自分の見方のどこを確かめ直したくなりましたか」。中央は、質問の意図・相手の考え・比較後の自分の考えに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

